

知床ヒグマ対策連絡会議の状況報告

1. 昨年度の経緯

- ・ H30.9 適正利用・エコツーリズム検討会議にて、ヒグマとの軋轢が深刻・危機的な状況であり、地域合意に基づく人身事故回避策の検討が急務とされました。
- ・ 検討の場は知床ヒグマ対策連絡会議（以下「連絡会議」）として、まず斜里町、羅臼町、標津町が各々協議した内容を基に、連絡会議にて検討結果を整理しました。

<特に危機的な状況について（主に斜里町）>

観光客（カメラマン含む）が、ヒグマ観察・撮影のため車道で降車、接近

⇒ヒグマとの距離が近く人身事故のおそれ・渋滞による交通事故のおそれ

※観光客の降車・接近に対する指導に強制力＝法令根拠がない

⇒事故がなくてもヒグマの人馴れを助長＝行動段階を悪化させる

※追い払い労力は増加する一方、効果が見込めない

⇒結果的に問題個体として捕殺対象となる可能性が高い

※科学委員会等からはヒグマではなく人の管理が重要との指摘がありました。

<連絡会議での検討結果>

- ・ 地域の合意が得られている「ヒグマ管理計画」を抜本的に変える必要はなく、今後も当該計画の枠組みの中で、住民意見を反映しつつ進めて行くことになりました。

※管理計画及びアクションプランには、考え得る対策が既に網羅されている。

※問題が顕在化している岩尾別地区（町道）においては、ヒグマを見たいという観光ニーズも考慮したシャトルバス社会実験の提案がありました。

<危機的状況への当面の対応方向性>

管理計画に基づき、連絡会議において関連する対策の検討・実施を加速化

⇒交通事故のおそれもあるため、車道管理の観点から、道路管理者と連携した観光客への注意喚起の強化等を協議していきます。

・ 道路上でのドライバー等への注意喚起を拡充していきます。

・ 問題区間での自動車利用適正化（シャトルバス試行等）に係る検討をしていきます。

・ 観光客の安全確保（ヒグマによる危険の回避）を最優先するため、出没時の場所・状況に応じて、追い払いよりも注意喚起に一層重点を置いた対応を検討していきます。

2. 今年度の主な対応状況

○令和元年度第1回ヒグマ対策連絡会議

1. 日 時 令和元年 10 月 31 日（木）13：30～17：15
2. 場 所 斜里町役場 2 階大会議室
3. 出席機関 環境省、林野庁、北海道、羅臼町、標津町、斜里町、知床財団
（オブザーバー）網走開発建設部
4. 結果概要 以下のとおり

〈アクションプランに関する個別報告内容〉

■ 野外看板の設置、広報

- ⇒ 知床世界自然遺産・登録地内国道 334 号線におけるヒグマ対策について
- ・ヒグマ普及啓発看板の設置、看板の増設、英語表記看板を設置しました。
 - ・道路情報電子掲示板に普及啓発文言を掲示しました。
 - ・広報誌による普及啓発、道路維持管理中に得られたヒグマ情報の提供がありました。

- 利用者や地域住民の安全を確保しながら世界自然遺産の利用の場を確保するため、特定管理地（公園内車道沿線）におけるヒグマ出没時の対応方針について、試験的変更を実施しました。

- 適切・不適切な行動の明示と、利用者が行動を選択するうえで必要なそれらの情報の周知や普及啓発（ホームページ、SNS、パンフレット、拠点施設内の展示の活用）

- ⇒ ウェブ媒体を使った情報発信について
- ・既存媒体の運営状況を確認しました。
 - ・新規情報発信媒体（Twitter、Instagram）の立ち上げについて報告し、効果と課題についてが確認しました。

■ 侵入防止柵・電気柵の整備

- ⇒ 斜里市街地周辺のヒグマ侵入防止電気柵
- ・令和元年度の整備内容（老朽化対応と運用の安定化）を確認しました。

- 住民居住地域におけるクマ対策を意識した家庭ゴミ収集ステーション、収集容器等の普及

- ⇒ ヒグマ対策ゴミステーションの設置について
- ・斜里町ウトロ地区に、ヒグマ対策ゴミステーション 3 基設置しました。

【ゾーン 1～4（特定管理地以外）】

■ 不法投棄ゴミやエゾシカ・海棲ほ乳類の死体等誘因物の除去

- ⇒ 羅臼町における市街地とその周辺へのヒグマ出没多発の現状と課題、次年度への対策
- ・今年度発生した連続飼い犬被害、生ゴミ被害、野生動物の死体によるヒグマ誘因の概要報告とその対策実施状況、今後の課題について確認しました。
- ⇒ 海獣類漂着時の対応について
- ・羅臼町、標津町、斜里町での海獣類漂着時の対応について報告しました。
 - ・斜里町では海岸管理者である北海道建設管理部が対応している経過があるが、羅臼町と標津町では町が単独で対応している状況です。
 - ・(会議外での内容) 今後、北海道建設管理部で本件について扱いを検討し、その結果を今後当会議で共有することになっています。

■ 捕獲(駆除、生け捕り)

- ⇒ 市街地周辺における銃器の使用について
- ・市街地発砲は警察官職務執行法第4条第1項を適用すれば可能であるが、「ヒグマが人間へ直接的に攻撃する寸前」などの厳しい制限によって、適用することがほとんどできず、市街地におけるヒグマ対応が困難な状態であります。
 - ・北海道と北海道警察との協議の中で、現場でも使いやすい基準を設けて、緊急性の高い場合には必要に応じて適用できるように協議してもらうよう3町より意見がありました。
 - ・ヒグマ対策連絡会議から北海道へ、北海道本庁と北海道警察への協議をお願いし北海道警察との協議内容等については当会議で共有することになりました。
 - ・羅臼町では町村会からの要望も検討しています。

■ 適切・不適切な行動の明示と、利用者が行動を選択するうえで必要なそれらの情報の周知や普及啓発(ホームページ、SNS、パンフレット、拠点施設内の展示の活用)

- ⇒ 情報発信に関する2018年度の申し合わせに関する2019年度の実施状況振り返り
- ・斜里町と羅臼町のヒグマ出没時の情報発信について報告があり、斜里町では事故後、町HPにて事故の速報、後日に詳細版を掲載しました。また、羅臼町では防災無線やチラシで情報提供をしました。
 - ・SNSによるリアルタイムの情報発信は、ヒグマが潜んでいる可能性のある危険な現場に人を呼び込むことになり、現場対応に苦慮する状況を生む側面を持ちますが、情報の出し方によりそれを防ぐことが可能です。今後も情報発信のあり方について、各町で情報共有していきます。

2019年度 知床半島ヒグマ管理計画 各目標に関する状況について

項目	町村	時期	件数	内容
人身事故	斜里	4月	1件	ヒグマ対策技術者育成のために捕獲従事しているハンター1名が、現場の下見中にヒグマに襲われた。
利用者の問題行動に起因する危険事例	斜里	5月 8月 9月	9件 4件 3件	岩尾別橋近く、幌別ポンホロ林道、で降車してヒグマを至近距離で撮影。ヒグマを観察するために車両が停車することによるヒグマ渋滞が発生。
地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例	羅臼	7月 8月 9月 10月	2件 2件 4件 1件	水産加工場の物置の扉が壊され、中に保管していた加工残渣を食べられた。住民が住宅付近に置いていた生ごみや不法投棄された生ごみが食べられた。飼い犬を捕食された。
市街地への出没件数	斜里 羅臼 標津		5件 123件 7件	2019年は3町で135件の市街地出没を確認した。
農業被害額及び被害面積	斜里			農作物被害は未集計。電気柵を導入している農地では被害が半減している。 (羅臼町)農業被害なし (標津町)デントコーン、牧草ロール、デントコーンサイレージ被害が発生しているが、被害額の修景は行われていない。
漁業活動に関係する危険事例	斜里 羅臼 標津			危険事例の発生なし。

・詳細は、知床のひぐまを参照ください。



① 日刊知床ヒグマ情報 日本語



2020年1月7日 (火) 更新

2019年12月のヒグマの目撃件数は3件。最後の目撃は12月31日。11月27日フレへの縄遊歩道で利用者がヒグマに追跡される事例が発生。...

知床半島ヒグマ管理計画の進め方について

本計画を科学的知見に基づき推進するため、学識経験者からなる「知床世界自然遺産地域科学委員会」及びその下に設置される「エゾシカ・ヒグマワーキンググループ」を定期的開催し、計画の科学的な評価・助言を得る。また、管理計画に基づく各種対策を确实かつ計画的に実行するための「年度ごとのアクションプラン」を定め、関係行政機関で組織する「知床ヒグマ対策連絡会議」において実施状況や実施結果を点検する。さらに、計画の実施について、地域の理解・協力を得るため、「知床世界自然遺産地域連絡会議」において定期的に計画の進捗や実施状況を報告する。

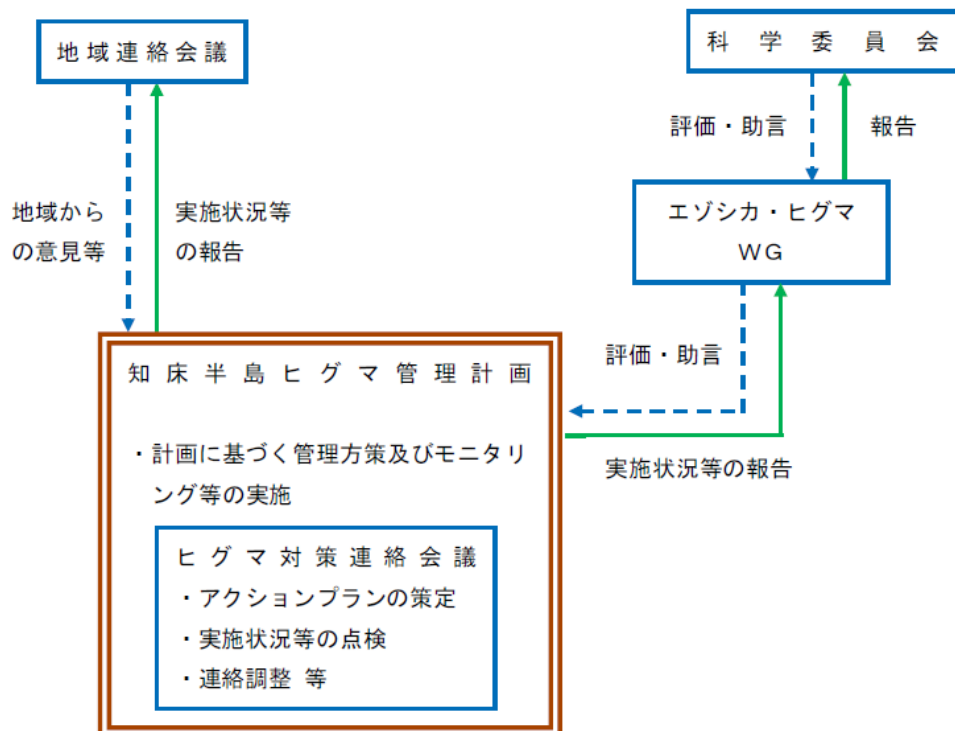
このほか、地域関係団体、地域住民、利用者に対しては、計画の内容について十分な広報周知を行いつつ、合意形成を図りながら本計画の対策を進めていく。

※知床半島ヒグマ管理計画「12. (3) 計画の進め方」より

知床ヒグマ対策連絡会議 2回程度開催/年度

知床半島ヒグマ管理計画に基づく年度ごとのアクションプランの策定及びその実施状況等の点検を行う。また、管理計画に基づく各種対策（対ヒグマ、対人間）の具体的な内容について検討・連絡調整を行う。

・2020（令和2） 年度開催予定：9～10月頃、2～3月頃



知床半島ヒグマ管理計画の進め方（イメージ）

